

みやまの風



令和5年7月20日(木)発行

園長 津田 将美

共に伸びていくこと

幼稚園HPのQRコードです

子どもたちの中で、懐中電灯ブームが起きました。おばけ屋敷の活動中に園の懐中電灯を使っていたところ、一人ひとりが持って活動したいという子どもたちの願いが生まれました。それを職員が受け止め、保護者会の協力を得てマイ懐中電灯を準備したのです。(会費を使わせていただき、ありがとうございました)

そこから、遊びは様々に発展していきました。暗いところを照らして光の変化を楽しむ子、ビー玉に通してその輝きに見とれる子、いろいろな場所を波のように動く光に興味をもつ子等々…

そんな中、色水遊びで作ったペットボトルにつなげて光らせる遊びが、子どもたちの中で広がっていきました。

幼稚園公開日の最中の出来事です。

ホールに集まった子たちが、照明をつけるか消すかで、言い合っています。教師はけんかにならないように間に入りました。

「なんでそうしたいのか、理由を言ってごらん。」

片方の子は、照明を消した方が明るく光ると主張します。もう片方の子は、ペットボトル全体に光が通らないので照明をつけたいと言っています。それぞれがきちんと根拠を相手に伝えられているのは、さすがです。

「じゃあ、どうしたらいいんだろう？」

今度は、解決方法を考えるように促します。こういう時も、大人が道筋をつけるのではなく、子どもたちに考えさせます。

「色水が濃すぎるから、あまり光らないんじゃない？」

ある子が言いました。

「そうかもしれない。」

「やってみよう。」

ペットボトルの色が濃い子は、水道に行って色を薄めました。暗い所に行って懐中電灯のスイッチを入れます。

「うわあ～、明るくなった！！」

子どもたちからは、歓声が上がりました。



帰りの会では、この出来事が話題になりました。教師は、自分たちの主張をするだけでなく、相手の立場も考えより良い解決方法を見つけたことを認め、子どもたちに返していきます。「色水をうすめた方がいい」と考えを出した子にもお礼を言いました。

「いい解決方法をみんなに教えてくれて、ありがとう。」

その子は少しはにかみながらも、とてもうれしそうな表情をしていました。

このような経験の積み重ねによって、子どもたちは自己肯定感と相手の立場になって考える資質を身につけていきます。一步一步は小さなものですが、ねばり強く積み重ねていくことで、素敵な大人に近づいていってほしいと思います。力をたくさん蓄えることのできた1学期でした。

明日からいよいよ、夏休みです。ご家族でよい夏をお過ごしください。

一学期の園景



玉ねぎ、ジャガイモ、ニンジンと園の畑での収穫は大豊作でした。こまめにお世話をした成果です。

畑の管理をしてくださった運転手さんにも感謝の気持ちを持ちながら、収穫の喜びを実感していました。



交通安全教室では、運転手さんはトラック役でした。横断歩道の渡り方を学び、実際に疑似体験をしました。いろいろな場面での渡り方を一人ひとりが体験することで緊張しながらも実践的に学ぶことができました。



七夕飾りを手に、にっこりの風景です。いろいろな技法の飾りの作り方に興味を持ち、意欲的に制作していました。

子どもたち一人ひとりが書いた短冊の願いごとが織姫、彦星に届いていますように。



山岸先生のご家庭で竹をくりぬいていただき、流しソーメンのセットが完成しました。

真剣にソーメンをすくい、大人が驚くほど子どもたちはたくさん食べました。



恒例のカレーパーティーが行われました。自分たちで収穫した野菜、自分たちで調理したカレーは本当においしかったようで、たくさん食べました。食育は、心の教育でもあります。おいしく食べることによって、食材や周りの人への感謝の気持ちを深めていきたいと思ひます。

夏のお楽しみ会



わくわくドキドキにあふれる素敵な時間となりました。子どもたちの思いっきりの笑顔に、大人も幸せをたくさんもらいました。

保護者会の皆様の心のこもった準備、運営本当にありがとうございました。